

都市再生整備計画(第4回変更)

よ な ご こうしゅうへん
米子港周辺地区

とっとりけん よ な ご し
鳥取県 米子市

令和6年11月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	☒
都市再生整備計画事業	☐
まちなかウォークابل推進事業	☐

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	鳥取県	市町村名	米子市	地区名	米子港周辺地区	面積	119.2	ha
計画期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度	交付期間	令和 3 年度 ~ 令和 7 年度					

目標

- ・米子港、新加茂川、加茂川など貴重な親水空間を生かした新たな魅力創造
- ・主要な緑地や交流施設を結ぶ歩行者の散策回遊ネットワークの形成
- ・まちと河川が交わる港灣の立地条件を有効活用した地域活性化

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

米子港周辺地域においては、平成22年度に、官民が参画した米子港再生委員会を鳥取県が設置し、関係行政機関や民間団体の代表者を交え利活用策の検討を行い、平成23年度には「漁港マリーナゾーン」、「活性化ゾーン」、「物流ゾーン」の3区域を設定する枠組みが整理された。しかし以降の具体的な検討を進めるには、個別具体の開発構想等が必要であったことから、利活用に係る検討は一旦、休止した。

平成30年度に本市が、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指し「中海・錦海かわまちづくり計画」を策定し、国、県、市が分担して親水護岸、棧橋、広場、駐車場等の具体的な整備に着手することとなった。

これを契機に米子港周辺地域全体の活性化を目指すため、鳥取県が学識経験者、観光・商工関係者、地元関係者、関係行政機関による「よなごベイウォーターフロント検討会（以下「検討会」という）」を設けた（米子市は委員として2名の部長が参画した）。

検討会は3回にわたる会議の結果、令和2年2月に基本コンセプト及び活用に向けた取組事例等の米子港周辺ウォーターフロント活用策を取りまとめた。今後の米子港周辺地域の利活用を推進するためには、検討会が取りまとめた活用策の具体化に向け、国・県・市、民間が連携しながら一体的な取組を進めることとしている。ポート、ヨットといった住民による日常的な湖面利用をはじめ、地域のランドマークである流れの観光客及び住民が訪れる米子城跡及び城下町周辺、地ビールフェスタ(屋外の飲食イベント)等の民間主体で実施されている各種優れた創出事業、周辺のリニューアルオープンした児童文化センター(プラナリウム)域の交流施設による集客の流れ等を一体的に活用し、更なる地域活性化を図る機運を高めている。

課題

米子港周辺地域では、米子城跡ライトアップ等の魅力発信事業や城下町ガイドコースの設定、民間事業者による商店街の再生、地元の食材を活用した屋外イベント、官民が連携した清掃活動、市民レガッタに代表する民間主体の中海を活用したスポーツイベント等、様々なにぎわいを創る取組が行われているが、それぞれが単独で実施され、相乗効果を十分に発揮していない。また米子港周辺地域には徒歩圏内に、公園や文化・歴史などに係る交流施設等が集中しているにも関わらず、来訪者に地域を周遊し、長時間滞在してもらう環境整備が十分に整っていないため、地域資源の有効活用が十分に図られていない。

地域資源を有効に活用し、米子港周辺地域の地域活性化を図っていくためには、まちなかにある港といった良好な立地条件をもつ米子港を中心に、米子港周辺地域を、行き先が分かりやすく、気軽に歩いて周遊できるように核となる場所を整備し、地域住民や観光客などの来訪者に長時間滞在してもらい、また現在実施している様々な取組が相乗効果を発揮することができる環境を整え、地域の魅力を十二分に実感でき、新たなにぎわいを創出する空間に整備する必要がある。

将来ビジョン(中長期)

○まちづくりビジョン(総合計画兼総合戦略)

まちづくりの基本方向に、中心市街地のにぎわい創出を掲げ、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成をめざしている。

○米子市都市計画マスタープラン

米子城跡などの歴史的・文化的な資産や加茂川、新加茂川、米子港などの貴重な親水空間があり、これら資源をいかしたうるおいのあり、いきいきとしたまちづくりを進めるとしている。

○米子市中心市街地活性化基本計画

ふるさとをいかしたまちづくりを方針に掲げ、自然や歴史資源と商業・文化等の都市機能との連携を図り、多様な目的を持って訪れる人々に満足感を与え、個性が際立つ交流の活発なまちの創出をめざしている。

○中海・錦海かわまちづくり計画

モノコトビルの集積点となることで新たな賑わいを創出し、地域活力を生み出すとともに、市民に潤いをもたらす憩い空間及び環境学習の場としての活用により、更なる地域の水上利用、水辺空間とのふれあいを促進することで、かわとまちが一体となつて魅力あるまちづくりを推進するとしている。

○米子市公共交通ビジョン

地域拠点または交通結節点と中心部を結ぶ路線は、本市のまちづくりにとって極めて重要であると認識し、維持・確保に努めとしている。本市のコミュニティバスについては、導入の経緯や現在の利用状況等を踏まえ、ルート等の見直しや多様な運行方式による効率化及び利便性向上を図るとしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

- ・「米子市都市計画マスタープラン」の将来都市構造における都市拠点として位置づけられている区域の周辺において、都市機能が充実している区域、または将来的な都市機能の集積が見込まれる区域を都市機能誘導区域として設定している。米子港周辺地区は、中心市街地と一体であり将来的な都市機能の集積が見込まれる「米子港活性化ゾーン」として都市機能誘導区域に設定する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
米子港周辺地域の入込客数の増加	人/年	城下町観光ガイドの年間利用者数	米子港周辺地域の入込客数を定量化する指標として、下町観光ガイドの利用者数を設定する。	4,733	R1	5,000	R7
米子港周辺地域の滞在時間の延長	人/年	児童文化センターの年間利用者数	米子港周辺地域の滞在時間の延長を定量化する指標として、児童文化センターの年間利用者数を設定する。	174,764	H30	190,000	R7
米子港周辺地域の回遊性の増加	人/年	米子市循環バス「だんだんバス」の年間利用者数	米子港周辺地域の回遊性を定量化する指標として、だんだんバスの利用者数を設定する。	129,933	H30	137,924	R7

計画区域の整備方針	
○米子港周辺地域を訪れる人の増加 ・周辺トイレのバリアフリー化、インバウンド対応等便益施設の整備を行い、誰もが訪問しやすい環境を整える。 ・行き先が分かりやすいサイン等を設置し、各拠点をつ結ぶネットワーク性の向上を図る。	方針に合致する主要な事業 公衆トイレ整備事業【基幹事業・高質空間形成施設】 加茂川広場整備事業【関連事業】 深浦郭船着場整備事業【関連事業】 米子港広場整備事業【基幹事業・地域生活基盤施設】
○滞在時間の延長 ・米子港に駐車場、緑地、トイレ等の便益施設を整備することで、米子港周辺地域の拠点性の向上を図る。 ・米子城跡のライトアップ等、必要なインフラ整備をすることで、夜間でも訪れやすい場所の提供を行う。 ・米子城跡の史跡公園化により、市民も観光客もより親しみやすい多くの人が行き交う空間を整備する。	米子港広場整備事業【基幹事業・地域生活基盤施設】【再掲】 公衆トイレ整備事業【基幹事業・高質空間形成施設】 史跡米子城整備事業【関連事業】 湊山球場解体工事【関連事業】
○賑わいの創出による、回遊性の増加 ・米子城跡、湊山公園、米子港等により人が往来しやすい環境を整備するために、最寄りのバス停を整備する。 ・米子港野積み場の民間事業者による活用に向け、公募条件の整理とともに、必要なインフラ整備を行う。	バス停整備事業【提案事業】 下水道管渠整備【関連事業】 不法建築物撤去【関連事業】 中海・錦海・かわまちづくり計画【関連事業】 プロムナード整備事業（湊山公園）【基幹事業・高質空間形成施設】
その他	
【まちづくりの住民参加】 ○水上アクティビティの実施 平成30年度に第50回を迎えたボートレース「米子市民レガッタ」、地域活動として「泳げる中海の再生」を目指した成果を示す象徴的なスポーツ大会「中海オープンウォータースイム」等のイベント、大会が開催されている。 ○水辺の賑わい創出 米子市中町、天神橋付近を乗下船場として「加茂川・中海遊覧船が運行しており、加茂川沿いから中海まで運行し、米子城跡や大山・中海を展望できる観光遊覧船として観光客を呼び込んでいる。また、市民が作った市民の祭りである「米子がいな祭」が毎年開催され、中海において実施される花火大会では約8万人の近隣住民及び観光客が集い、地域の活力を創出している。 ○環境保全活動 中海・宍道湖がラムサール条約登録湿地となったことを記念し毎年開催される「中海・宍道湖一斉清掃」においては、地域住民、地元企業、周辺自治体の協働により約8,000名ものボランティアが集い、中海沿岸5市で一斉に清掃が行われる。また、NPO法人中海再生プロジェクトが中心となって、「10年間で泳げる中海」「中海を利用した活性化」を目的として、中海アダプトプログラムをはじめとした各種取組が継続実施されている。加えて、幼児から高校生までが参加できる環境学習活動として米子市が事務局を持ち実施している「こどもエコクラブ」では、加茂川・中海の水質測定や水生生物学学習、中海クルージング体験を行うなど、ワイズユースに繋がる環境学習を実施している。 ○下町観光 米子城跡の北側には、往時の町割りや小路の形態がよく残存していることから、まち歩きなどの観光コースとなっており、平成30年4月には「米子観光まちづくり公社（城下町観光ツアーを造成、販売する一般社団法人）」が設立され、歴史、文化、飲食、買い物等を複合的に提供する城下町観光の取組が一層盛んに行われている。また、城下町の中心部を東西に横切る加茂川周辺には、平成28年4月に認定を受けた日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」の構成文化財でもある「加茂川地蔵群」が存在し、当地域独自の風習、歴史、文化の観点から、まち歩き観光の価値を高めている。 旧加茂川の名称変更 平成31年1月に米子市商店街連合会や自治連合会などの10団体から「旧加茂川」周辺の水辺空間を活かした歴史・文化・観光によるまちづくりを推進する目的で、「加茂川」の名称復活を望む要望書が本市へ提出され、本市から鳥取県へ同河川等の名称を変更する要望を行った。一級河川の名称の変更は国の権限であることから、鳥取県は河川管理者として幅広く県民意見を聞くためパブリックコメントを実施後、令和2年2月県議会の議決を経て国へ名称変更の要望を行い、令和2年8月5日に旧加茂川等の河川の名称が変更となった。	

様式(1)-④-2

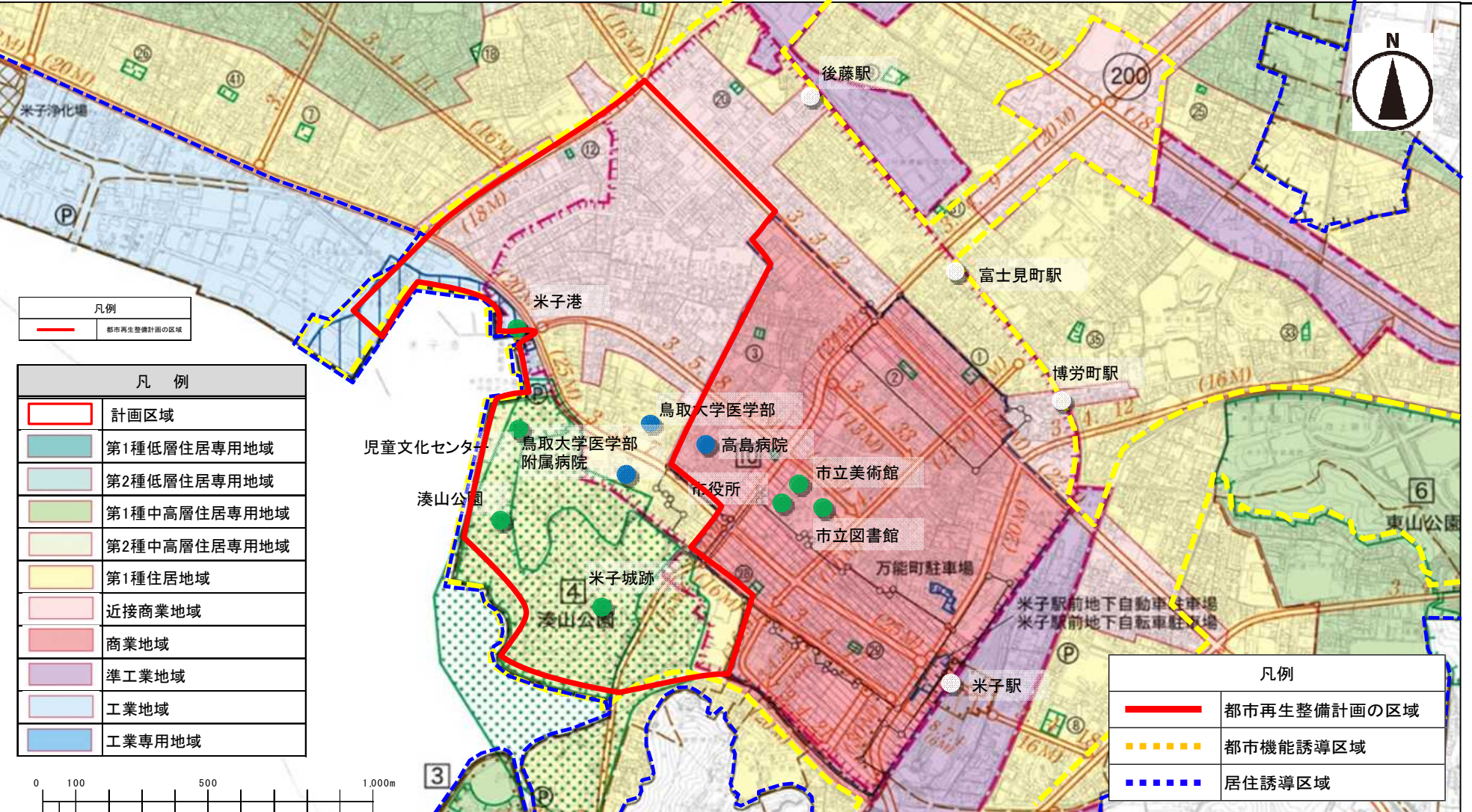
(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してください

合計(A+B)	485
---------	-----

[illegible]

米子港周辺地区(鳥取県米子市)	面積	119.2 ha	区域	米子市灘町一丁目の全部と西町、久米町の一部
-----------------	----	----------	----	-----------------------



米子港周辺地区(鳥取県米子市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	・米子港、新加茂川、加茂川など貴重な親水空間を生かした新たな魅力創造 ・主要な緑地や交流施設を結ぶ歩行者の散策回遊ネットワークの形成 ・まちと河川が交わる港湾の立地条件を有効活用した地域活性化	代表的な指標	下町観光ガイド利用者数	(人/年)	4,733人/年	(R2年度)	→	5,000人/年	(R7年度)
			文化施設利用者数	(人/年)	174,764人/年	(R2年度)	→	190,000人/年	(R7年度)
			米子市循環バス利用者数	(人/年)	129,933人/年	(R2年度)	→	137,924人/年	(R7年度)

